

つがるの昔っこ（昔話）⑧

なしてそうなったんだべず話こ① （津軽弁）



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ



さ、今日はおめでだぢさ、なしてそう
なつたんだべズ話コ知かへがな。
昔せ、赤倉さ鬼ア一匹住んであたど。この
鬼せ、神様の家来コであたばて、だんだ
ん神様の言うことをきかねで、盛に人ば
殺して食つたど。

神様も困つて、この鬼さ『お前を下界
に遺したのは、人を殺して食べさせるた
めではない。悪い獣や毒蛇をとりしずめ
させるためにやったのじゃ』て云(し)
たども、この鬼アいっこうにきかねど

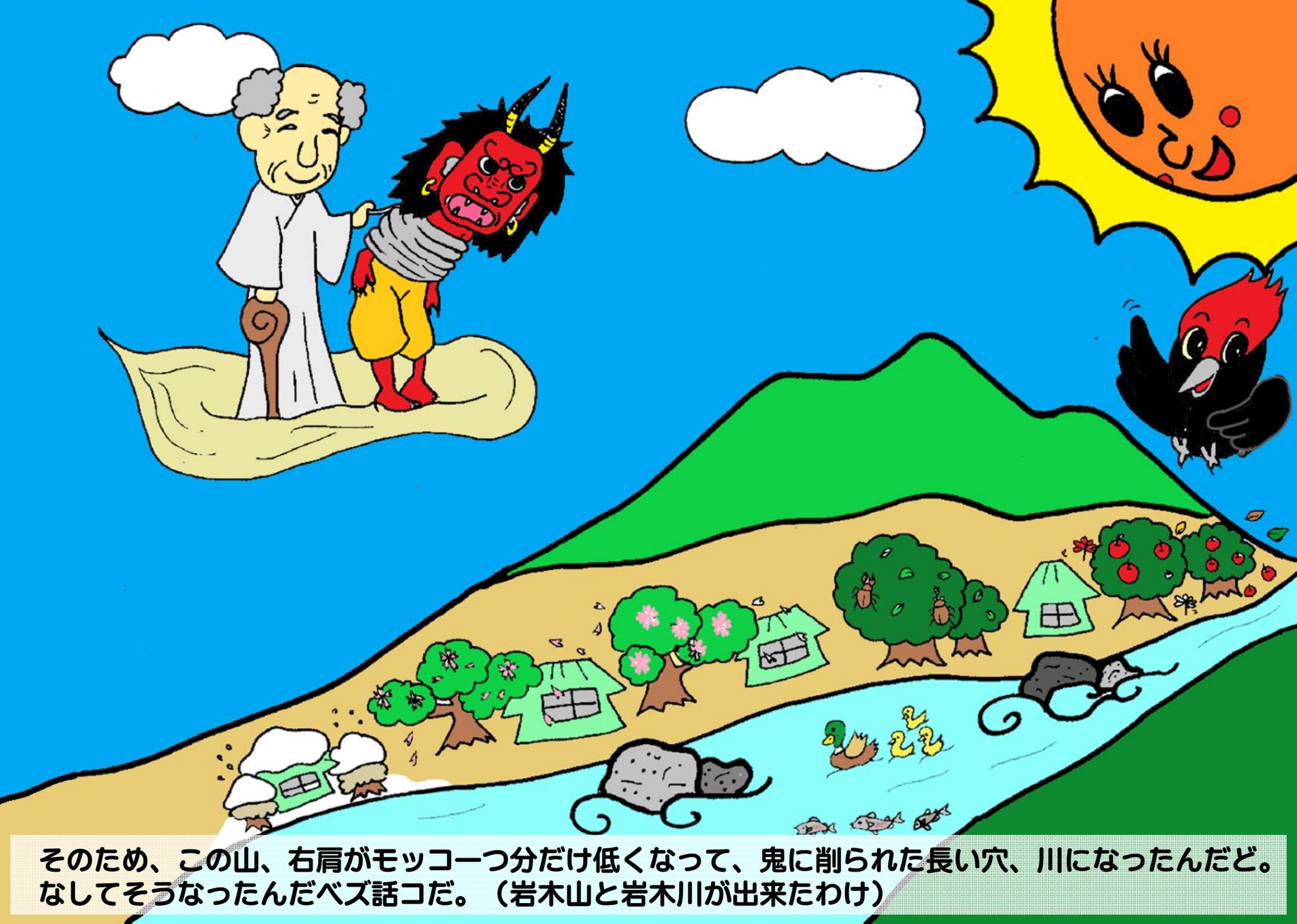
神様 この鬼とば殺してしまうのはわけ無い事であつたども、それだば不憫だど思つて、鬼とば広一い野原の
真ん中さ連で行つて、『東の空から陽ア昇らねうぢに、ここさモッコひとつで土ど石運んで、大きい山を築げ。
見事それが出来たら今までの科(とが)は許してやる』て云(し)て、
七里長浜の砂の上に頂が三つにわかれたきれいがだだ山の形コ描いで見(め)へだど。



鬼アケラケラど笑て、得意の神通力ば使って野原の土バ、ゲロゲロど削ってモッコさ入（へ）で山盛りにしていったど。ザックラモッコラ、ザックラモッコラ、土削って運んで、神様が描いて見へだ山の形コに仕上げっていったずおん。



そして、もうモッコーっだけ運べば、山出来でしまうどごま
できた時、お陽様、東の空からニコカコーって昇たずおん。
あぢの村、こぢの村がらコケコッコーと一番鶏鳴いだど。
約束の時間まで山出来ねがった鬼ア、神様にかて天さ連れ戻さ
れで鎖さ繋がれてまた。



そのため、この山、右肩がモッコ一つ分だけ低くなって、鬼に削られた長い穴、川になったんだど。
なしてそうなったんだベズ話コだ。（岩木山と岩木川が出来たわけ）

つがるの昔っこ（昔話）⑧

なしてそうなったんだべず話こ② （津軽弁）



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ

次の話コも鬼の話コだ。
昔、長根派立、今の鬼沢村さ弥十郎ズ男が
居であた。岩木山さ柴刈りに行ってるうち
に赤倉沢に居る鬼ど仲良くなつたど。山さ
行っては鬼ど相撲とって遊んだり、山菜
とったり、一緒に柴ば集めだりしたど。



力持ぢの鬼アは雑木ばムタムタど抜いで蔓
で束ねで弥十郎さ持だへでよごすんだど。
村の人達ア、この根コついた山の柴を見
で不思議がったど。

ある年の事だ、その年雨少なくて、田も畑もズーッと枯れでまたど。そして、その次の年も日照りで田さ引く水も干上がってまで、食うもの何もとれねがったど。弥十郎が山に行った時



『おえの村ア、二年続きの日照りで、田も畑も枯れでまるじゃ、これだば死なねばまね。鬼ヤ、鬼ヤ、お前さ何かいい分別無えな』て言(し)たど。鬼アしばらく腕組んで考えでらばて、『それだば困たな、私(わ)さいい分別ある。まがへでおげ』



て、又、いっぺえ柴抜いで弥十郎さ背負（しよ）わへで家さに帰したど。



その晩（ばげ）夜中に目をさましたきや、水が流れる音が聞けきたど。『わい』ど思って外さ出はったきや、そこさは新しい堰出来てあて、そこがら田の中さ水がコーコど流れてあつたど。村の人たちもみんな出はてきて、それ見でどってんして飛び上がって喜こんだんだど。弥十郎は、これはきっとあの鬼の仕業だど思て村の人さ話して聞がへだど。

村の人ア鬼さ感謝してヨ、それから誰からともなく、この長根派立バ鬼の沢、鬼沢って呼ぶようになった。



弥十郎と村の人達は鬼バ神様として祭ることにして、立派だ神社バ建てだど。んだ、鬼神社せ。鬼沢では今でも節分の日は『鬼は外』の豆まぎやらねんだずI。なしてそうなたんだべず話コだ。

つがるの昔っこ（昔話）⑧

なしてそうなったんだべず話こ③ （津軽弁）



国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：つしま けいこ



昔、為信サマ津軽統一した時の頃の話だ。その頃アまだ津軽は南部の領地であつたど。南部の代官で南部高信という部将が石川の大仏のお城さ居だど。為信ズ殿様せ、勇気も度胸もあつて、おまげにながなが頭も働く人であつたど。

十八の時に大浦城の城主になって、その後、堀越さ移つたど。その頃の堀越ア小せい館で、石川さも近くであつたどごで、石川さ居る郡代の南部高信も少し気を許してあつたど。

ある時、為信ア石川さ使いバやって、『堀越の館の土手が崩れたので修理したいがよろしいでしょうか?』て聞いたど。石川城の家来が来て見分したきゃ、先頃の大風ど雨とで館の土手アみんな崩れてまてらずおん。高信は『修理してもよろしい』と許したど。

為信は早速、大浦から人夫いっぺ呼ばて修理バ始めだど。その人夫ズのアせ、みんな家来の侍達であつたど。

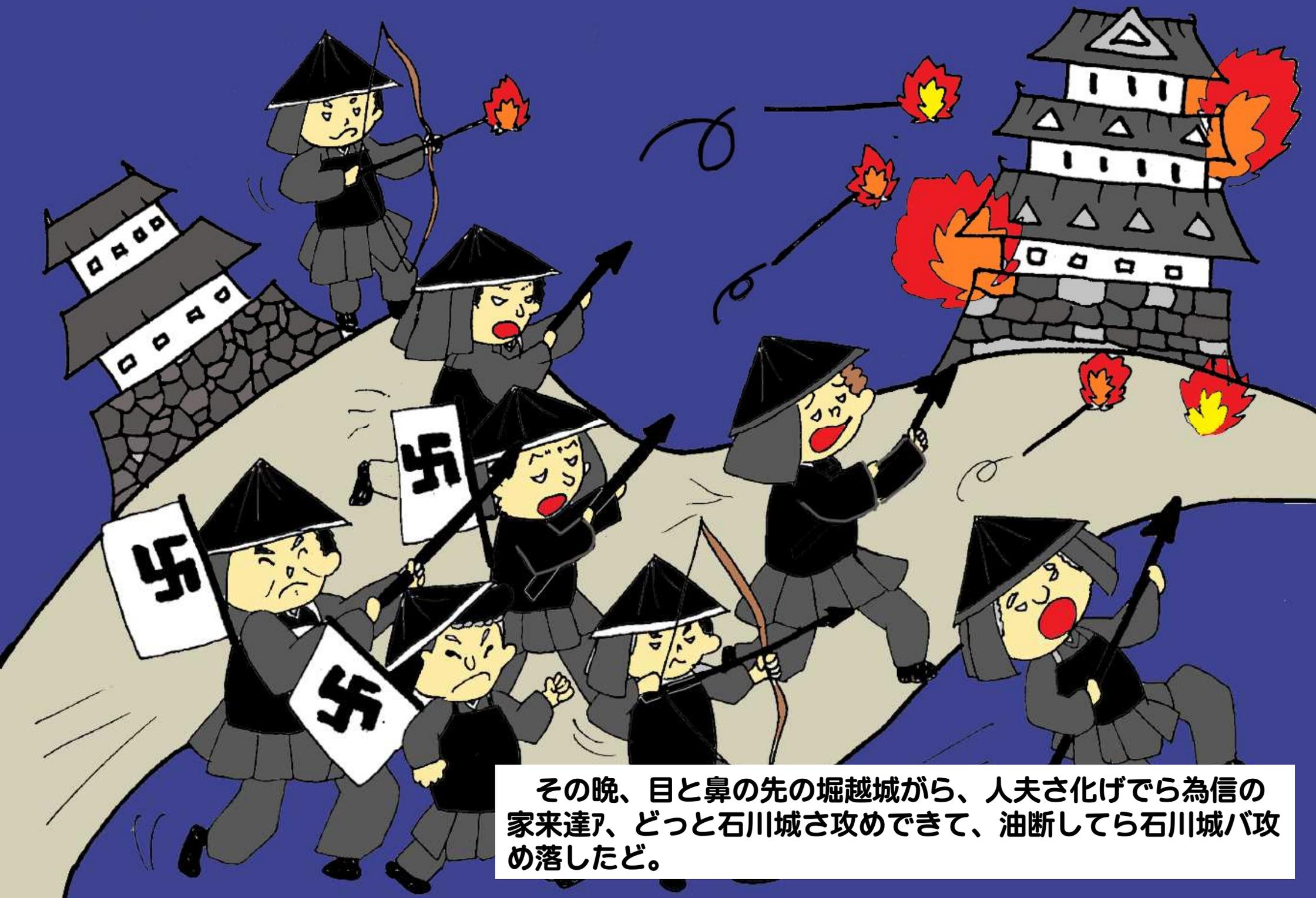
館の修理たんげ出来どどこで、『おかげ様をもちまして、堀越の修繕も終わりました。ついでには完成祝いをしたいので、ぜひお越してください。ただ、堀越の方はまだいろいろ片付けがありますので、大浦の方へどうぞ』で招いたど。高信は石川城の重臣ば三人名大として大浦さやったど。





大浦ではこの三人の重臣と付いてきた兵達さそれこそ死にたばれ飲まへで飲まへで、食(か)へで、食へで歓迎したと。そして三日目に、のそらっと土産持でへで石川まで送っていたと。

食って飲んで、余るんた土産まで貰った重臣達ど家来達ア、いーい気分になって家さ戻てどっと眠てまたと。



その晩、目と鼻の先の堀越城から、人夫さ化げでら為信の家来達ア、どっと石川城さ攻めできて、油断してら石川城バ攻め落したど。

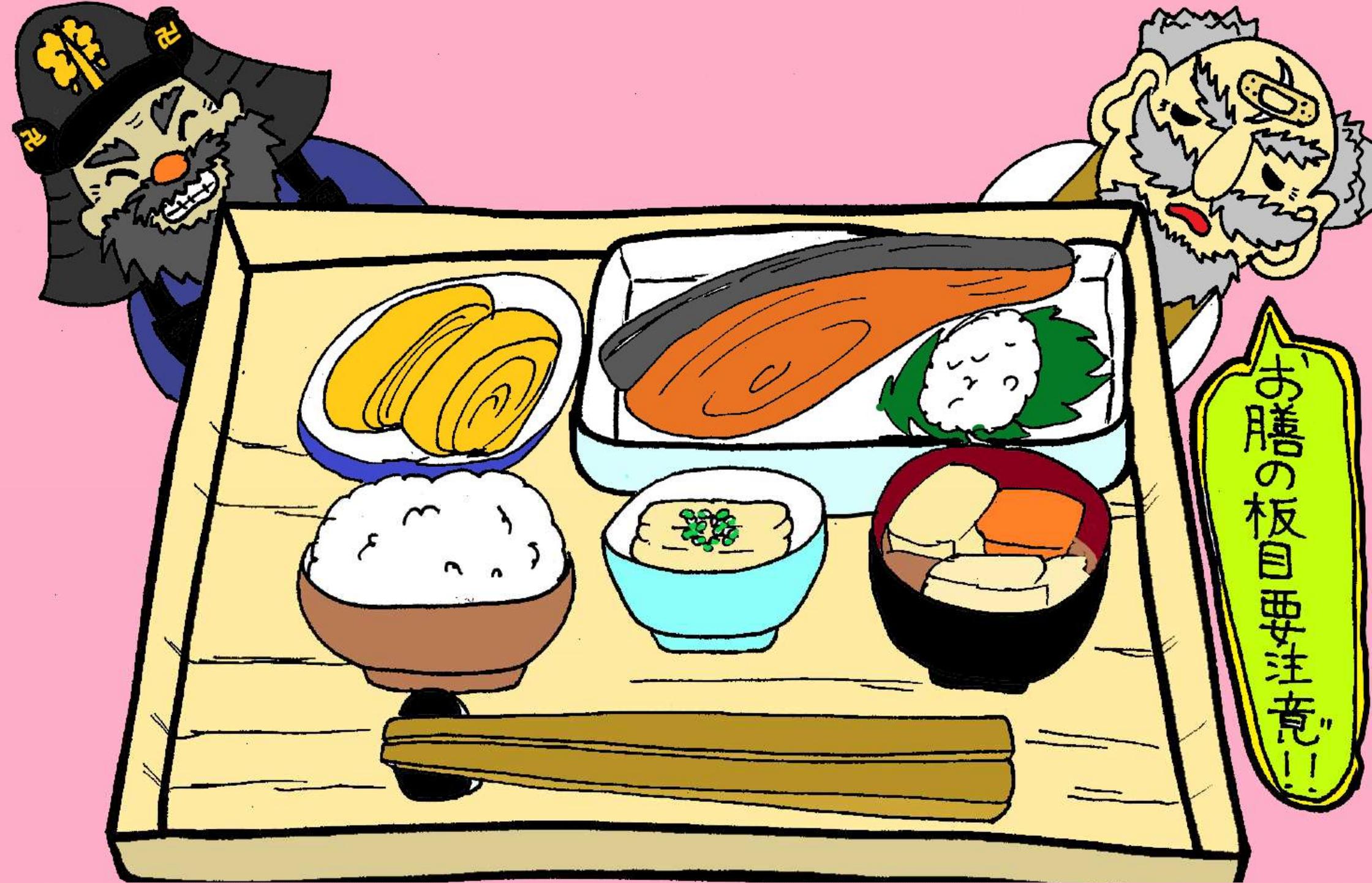


そして、その知らせが和徳城さ届がねうちに、とって返してその夜のうちに和徳城バ攻め、これも攻め取ったど。

和徳城主小山内讃岐の守ズ人ア猛将であったけど、この晩家来達とお膳並べで酒盛りをしてあつたんずおん。



突然乱入してきた敵将の刃バ刀を抜ぐのも間に合わねで、
とっさに目の前さあつたお膳ば持ってパツと防いだど。
ところが、そのお膳の板目A柾目であつて、その板目バ縦
にしてあつたどごで、敵の刀Aスパツとそのお膳ば斬つて、
讃岐の守の眉間もズバツと割つたど。



それから和徳村の人達ア、お膳バ置くときア、必ず板目バ横にして置くようになったんだど。
これも、なしてそうになったんだベズ話コだ。 とっちばれ。